絲綢之路

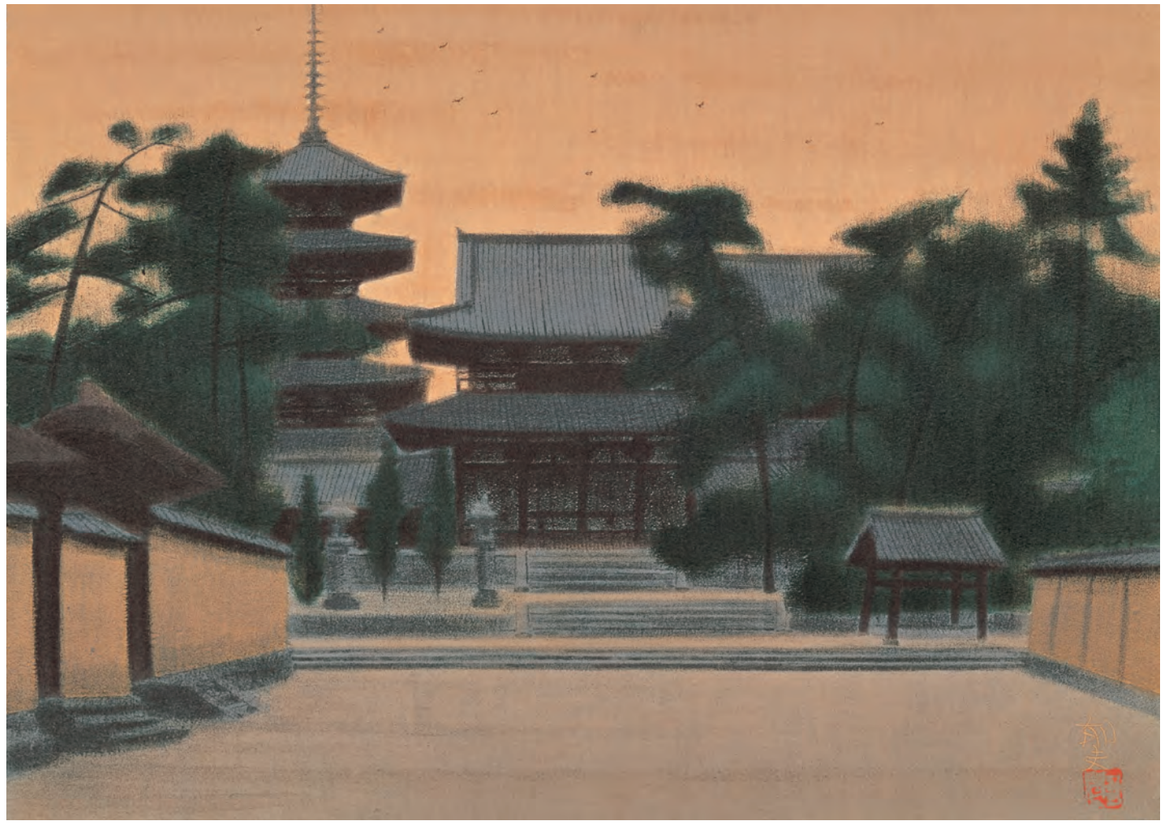
シルクロード

SILKROAD

2020-新春

No.92

●表紙の画および題字は、
故・平山郁夫画伯のご厚意により
ご提供いただいているものです。



法隆寺　1979年

【葡萄唐草模様について】

古代、ペルシャ、コーカサス生まれの葡萄が蔓草と一つになり、西へ、東へ、シルクロードを経て東西の文化を彩る文様となりました。私どもの財団ではシルクロードを中心に、世界の文化に寄与できればと、この葡萄唐草文様をシンボルマークにいたしました。

●シンボルマークデザイン：吉田左源二

公益財団法人
文化財保護・芸術研究助成財団
FOUNDATION FOR CULTURAL HERITAGE AND ART RESEARCH

サブラータの古代遺跡

（リビア）

ユネスコ世界遺産（文化遺産）シリーズ　©UNESCO

首都トリポリ西方の古代都市。紀元前四世紀フェニキア時代から貿易拠点として栄えた。城壁、公共広場、アントニウス・ピウス神殿、劇場などが残っているが、なかでも三世紀初めに建てられた円形劇場は三層の楽屋を備え、北アフリカ最大の規模といわれる。

二〇一六年世界遺産委員会は、リビアの他四ヵ所の世界遺産とともに、サブラータの古代遺跡を危機遺産に登録した。同国内の軍事紛争で、遺跡が破壊されることが危惧されている。

（一九八二年に文化遺産として、二〇一六年に危機遺産として登録）

公益社団法人
日本ユネスコ協会連盟

年頭の御挨拶

新しい時代の年頭に思うこと

理事長
宮廻 正明
（みやさこ・まさあき）

新年あけましておめでとうございます。

「平成」から「令和」へと時代は変わりました。年頭にあたり、新しい御代が平和で豊かな時代であることを願い、祈りたいと思います。

今、時代は人工知能（ＡＩ）に代表されるように、私たちの日常生活もコンピュータに管理、支配される傾向が顕著になってきております。もちろん、そうなっては本末転倒です。今後、ある意味、ＡＩとどうつきあうべきかは、人類にとって喫緊の課題であるといえます。

さて、今年は夏に東京オリンピック、パラリンピックが開かれます。日頃、スポーツとあまり縁のない生活を送っている身としては、東京の猛暑の中、選手も観客も暑さに負けることなく、無事に大会を終了していただければ、と願う次第です。そして、日本が金メダルをはじめ多くのメダルを獲得することが出来れば、これはもう最高です。

恒例の日中韓文化交流フォーラムは、15回目となり、「音楽」をテーマに昨年十一月十三日から十六日までの日程で東京で開かれました。

ひと口に音楽と申しましても、含むところの分野は多岐多様です。今回は三ヵ国共に東洋の国であることを意識して「琴」という楽器を取り上げました。

日本は「箏」を、中国は「古琴」を、韓国は「伽耶琴」を取り上げ、論じました。この三つの楽器は非常に似ていて、そして非なるものでした。当然、音色は異なります。しかし、いずれの楽器も生み出す音は、人々の心を癒すには十分なものでした。

今回のフォーラムの一環として、フォーラムの生みの親である平山郁夫先生の母校であり、私の母校でもある東京藝術大学を視察という形で、中・韓の代表団を御案内いたしました。このあたりの事情を含め、詳しくは本文をお読みください。

総じて今回のフォーラムは成功裡に無事終了いたしました。いろいろ御協力、御支援を賜りました個人、法人、関係者の皆さまには心より感謝申し上げます。

ところで、地球温暖化の影響でしょうか。近年、発生する台風は回数の多さもさることながら、大型化し、それに比例して被害も甚大となっております。昨年も台風は多くの悲劇を日本にもたらしました。

大きな自然災害に見舞われますと、尊い人命が失われ、貴重な財産も失われます。文化財とて例外ではありません。

自然災害は毎年発生します。しかも、日本で起きていることは、今や世界の至る所で見られるようになりました。

地球の温暖化を止めることは人類の叡智を結集すれば可能です。

国境、人種、宗教等々、多くの壁を乗り越えて、私たちは次の世代のためにも、この地球を守る活動をすべきだと考えます。

その地球を目ざし「はやぶさ2」が、小惑星「リュウグウ」から帰還の途についています。およそ八億キロの宇宙の旅です。本年十一月末から十二月にかけて「はやぶさ2」は地球に帰ります。乙姫さまの玉手箱の中味に大いに期待が寄せられます。無事を祈りたいと思います。

ここで、私自身に関することを記すことをお許しください。私が、クローン文化財の研究、開発に取り組んでまいったことは、皆さま御存知のことと拝察いたします。本年はこの技術を進化、発展させると共に、その具体的な成果を御報告出来ることを願って努力してまいります。

私にはもうひとつ、日本画家としての創作活動が控えております。これも大切な仕事です。本年はウズベキスタンをはじめ、海外での個展の話も進んでおります。健康に留意して微力ではありますが、日本の美術界のために少しでもお役に立てればと願っている次第です。

もちろん、理事長として財団の運営に関して重責をになっていることは十分承知いたしています。新年を機に財団のさらなる発展のため、身を粉にしてつくす覚悟です。

肝心の財団の財政状況はと申しますと、ここ数年来の予算面での苦しさに変わりはありません。そうした中、私どもは経費節約はもちろんのこと、安全かつ効率の良い資産運用、個人・法人会員の増加等々、安定運営をめざして、財政基盤の充実に努めてまいる所存です。

こうした姿勢を続けることによって、日本が目標としている世界に冠たる文化・芸術立国の実現に少しでもお役に立てれば、これに優る喜びはありません。

皆さま、本年も私どもの意をお汲みとりのうえ、よろしく御指導、御鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

法隆寺金堂壁画が語りかけてくるもの

昭和二十四年（一九四九）一月二十六日早朝、法隆寺金堂炎上。国宝中の国宝であった壁画は焼損。しかし今、この壁画に新たな生命が……。

宮内庁
三の丸尚蔵館
朝賀 浩（あさか・ひろし）

痛恨の炎上

日本が世界に誇る法隆寺金堂壁画。そのかけがえのない歴史的価値と、恒久的保存の必要性については既に明治時代以来繰り返し指摘されてきた。大正五年（一九一六）には岡倉天心の進言により文部省に「法隆寺壁画保存方法調査委員会」が設置され、この時には主として地震対策が具体的に検討されている。昭和に入ると境内諸堂宇の保存修理事業が開始され、戦況が厳しくなる中でも継続して行われた。

ところが終戦間もない昭和二十四年（一九四九）一月二十六日早朝、金堂内の不慮の火災によってあの森厳な仏菩薩の姿を描く壁画は取り返しのつかない被害に遭った。壁画は高熱に晒され変色してしまい、建築軸部は真っ黒く炭化して細かくひび割れた。それらは直後に保存処置を施されて収蔵庫に収められ、以来一般の目にはほとんど触れないまま、およそ七十年の歳月が経過した。

鎮火後、焼損壁画（10号壁）にむかい合掌する法隆寺の佐伯定胤貫主（1949年1月26日）

収蔵庫内現状

復活への道

平成二十七年（二〇一五）、法隆寺はこの焼損壁画及び罹災を免れた壁画、ならびに金堂の建築部材、さらには収蔵庫内の保存環境等を総合的に調査研究し、その保存と活用の基本的なあり方を検討するために「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」を設置した。法隆寺としては可能であれば将来この焼損壁画を一般に公開し、文化財保護のモニュメントにしたいと考えている。

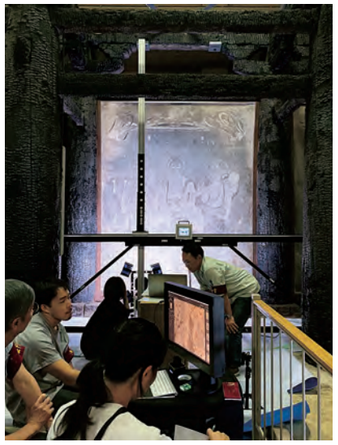
設置された委員会には、建築史、美術史、保存科学などの学識経験者らが参集し、委員会の下に建築部材、壁画、保存環境、アーカイブの四つのワーキンググループを設け、それらが連携しながら各分野の専門的な調査を行う体制をとっている。過去の諸事例の反省から、最初に収蔵庫内における調査活動自身が庫内環境に悪影響を及ぼし文化財に負担を掛けることがないか、環境の現状把握と、環境生成メカニズムの解明から着手した。またこれまでに収蔵庫環境に悪影響を及ぼす心配の少ない調査は慎重に実施されている。昭和大修理や焼損後の保存処置に関連する文献資料や図面や写真類などを捜索、把握、整理し、デジタル化を進め、また収蔵庫二階に保管される金堂外陣上部の山中羅漢図が描かれていた壁画残片の撮影や計測、図様の確認などを行っている。

1号壁全図。釈迦三尊を中心に、その左右に十大弟士が侍立する

また、そもそもこの鉄筋コンクリート造の収蔵庫が設置から六十五年を経て、充分な耐震性能を保っているかどうかについても確認が必要なため、コア抜き検査や設計図面との照合などを実施した。最終的にこの収蔵庫は現状で非常に安定しており、ここで壁画の公開を実現することは不可能ではないという結論を得た。

立ちはだかる課題

委員会設置から三年が経過し、いくつかの基礎的な調査の上、平成三十一年一月にその中間報告がなされ、一定の成果が発表された。今後は引き続き慎重ながらもさらに多様な調査を計画的に実施する予定である。壁画や軸部の保存のために必要な調査はもちろんのこと、実物に即した調査研究が長年にわたり充分に行われてこなかった法隆寺金堂壁画の、その文化財としての位置づけをあらためて検証することも求められる。具体的には、まずは現状の高精細撮影を実施したい。また壁体や軸部木材の内部構造についても見極めたいが、大型で移動困難な対象をどう扱うかが課題である。高松塚やキトラの古墳壁画の場合と同様の手法で絵具の光学的調査や科学分析も行う。収蔵庫環境に関しては引き続きの現状計測に加えて、環境再現シミュレーションを作り、これをもとに多様な選択肢の中からどのような運用が文化財にもっとも適切な方法か提案することを目指している。デジタル化された画像や記録類の分析からは、法隆寺保存事業の歴史を具体的に掘り起こすことになろう。これらは恐らく我が国における文化財保存科学の最先端の理念と技術を駆使した調査になるだろうし、また世界遺産法隆寺が所蔵する多様な文化財を総合的に評価することにも繋がると考えている。



1号壁撮影風景

飛天壁クリーニング作業。（内陣小壁20面の内）

新たな生命の注入

この壁画が一般に公開される日が来るとする。その時、人々はまさに鎮火直後の火災現場に身を置いたような緊張感に包まれるだろう。黒く炭化した柱や梁に縁取られた壁画には、色褪せてくすんだ仏菩薩の姿が朦朧と浮かび上がる。しかし金堂壁画は決して絶命したわけではない。いまも比類無き存在感を保ち、見る者に静かな力で迫ってくる。圧倒され、沈黙させられ、無念の想いに襲われるものの、同時に何かしなければ、何か考えなければと思わせる力は健在である。

この力を重く受け止め、繰り返される人間の過ちを悔やみながらも、はかなく、かけがえのない人々の営みの結晶を、いとおしみ、いつくしむ。この感情を不断に伝えていくことが文化財愛護の本質であろう。法隆寺金堂壁画の一般公開は、単に焼けただれた姿を見世物にするのではない。広島の原爆ドームの痛々しい姿によって平和への祈念が世代を超えて継承されるのと同様、法隆寺金堂壁画は文化財保護のモニュメントとして、多くの人々に大切なものを訴えかけるだろう。

それを実現するために委員会では引き続き壁画の保存と活用を慎重に検討していく。そのために必要な数々の基礎的調査を蓄積していかねばならないが、広く国民に、そして世界の人々に理解と支援を求めたい。

委員会活動の後半を一層充実したものにしようと企てているさなか、壁画の公開を慎重にかつ強く希求されていた大野玄妙管長猊下が、昨年十月二十六日、入滅された。師のご遺志に沿いながら、文化財保護の機運をさらに醸成していかねばならないと思いを新たにしている。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

第1回保存活用委員会。挨拶に立つ 大野玄妙管長

昭憲皇太后大礼服研究修復復元プロジェクト

国産の服地を用いた日本人の手によると思われる初の皇后の大礼服。その制作過程の解明と保護の問題に取り組む現状を報告。

中世日本研究所・所長
昭憲皇太后大礼服研究修復
復元プロジェクト実行委員長
モニカ・ベーテ

昭憲皇太后の大礼服をめぐって

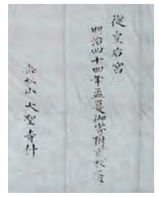
私ども中世日本研究所が進める「尼門跡寺院修復プロジェクト」は、かれこれ二十年近くに渡り、（公財）文化財保護・芸術研究助成財団よりご支援ご協力をいただいております。長く続いていますのは、それだけ多くの宝物類が、文化財の赤十字である財団の救いの手を待っているからです。まだまだ多くの宝物類があり少しでも未来へ残していけるよう、これからも取り組みたいと思っております。

昭憲皇太后御尊影（鈴木真一・丸木利陽撮影）

この度は、「昭憲皇太后大礼服研究修復復元プロジェクト」という、より大きなプロジェクトを進めています。長年、修復のみでなく研究の推進、また世界の研究者との交流など、多岐にわたり取り組みたかった懸案事業です。二〇二〇年は明治神宮鎮座一〇〇年祭の記念の年でもあり、明治神宮との協力関係のもとプロジェクトを行なっております。

百年ほど前、明治四十四年孟夏（初夏）、明治天皇の皇后（昭憲皇太后）よりこの大礼服が大聖寺門跡へ下賜されました。それより二十年余り前、皇后が新年拝賀の儀式などでお召しになられた最も格式ある礼服の※ボディスと長い※※トレインです。大きな長方形のトレインは拝領後、二枚の打敷に仕立て直され、大聖寺において特別な遠忌法要の際の祭壇に使われました。当時の日記には「打敷は洋服で」飾ったと記されています。おそらくこの皇后のトレインのことだったと思われます。

しかし、豪華な刺繍部分の盛り上がった打敷は本堂内を荘厳するには少々使いにくかったのかもしれません。その後、大礼服は展覧会に出展のため、元のトレインに仕立て直されました。今まで数度しか展示されていませんが、糸は経年劣化し、折り目やトレインの端など、生地に負荷がかかる場所でかなり傷みが進んでいます。



昭憲皇太后から拝領した大礼服のトレインに書かれた墨書

大礼服全体図

解き明かされてゆく謎

昭憲皇太后の大礼服は、今では三着のみ現存していることが知られています。その中でもこの大礼服はデザインや素材、技法などから、明治二十二年（一八八九）から二十三年頃の最も古いものとされています。洋装は外交的な必要性からで、初代内閣総理大臣であった伊藤博文（一八四一～一九〇九）の意向で、近代国家として欧米と対等に外交を進める上での決断でもありました。この大礼服の制作時期は、※※※大日本帝国憲法発布式の頃で、薔薇文様の大礼服をお召しになる皇后の御真影写真の撮影時期とほぼ同年代に当たります。

皇后は洋装の着用に際し、明治二十年に洋装を奨励する「思召書」を下されました。皇后は、国産の服地を使用するようにと記され、洋装を奨励されるにも日本の発展、産業の振興にと心を配られた内容でした。

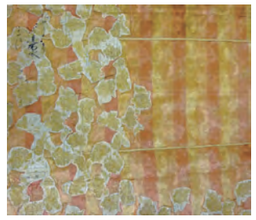
生地部分

刺繍部分

皇后はご自身が下された思召書で述べられたことを、この大礼服で示されたのでしょうか。一見、大聖寺の大礼服は全てにおいて西洋風に見えます。パターンは、日本の花ではなく、特徴あるバラの模様です。刺繍は、欧米の宮廷服で流行していた金属製のコイル、スパンコールなどを使用しており、当時日本にはこの材料はありませんでした。また初期の洋服は外国で仕立てられたという記録もあります。

研究の成果から、大礼服製作時のことが少しずつ判明してきました。二〇一九年、いよいよトレインの初期調査と解体が始まり、さらに謎が少しずつ解き明かされてきました。裏地には金属刺繍を補強する反故和紙が使われていたことがわかり、墨で書かれた「明治十一年」の日付もはっきりと見えました。これは日本で刺繍が行われたという確かな証拠です。しかし、これだけでは生地や仕立てについて特定することはできません。

詳しく調べるために、海外の染織や修復、宮廷服などに詳しい専門家と、二〇一九年秋に何度か研究会を開き、色々なことがわかってきました。ボディスの内側やボーニングはヨーロッパの形と若干異なります。ドイツの専門家が縫い糸を調べると、ボディスがヨーロッパで作られていないという明確な証拠が示されました。当時ヨーロッパで使用されていた糸はしっかりとした三本の撚り糸ですが、このボディスの縫い糸は二本の糸が緩く撚られたものが使われていました。



刺繍裏地の写真

ヨーロッパの多くの生地も丹念に調べましたが、どれも当てはまらないことがわかってきました。織りの組織は似たようなものがあるのですが、文様はどれも似たものがないのです。生地の幅も五十八センチとイタリアなどの生地としては幅が狭く、デザインもどこかしっくりと当てはまりません。一方、日本の染織専門家の人たちは、これは当時新しく日本で導入され日本仕様に改造されたジャカード織機では織ることができなかったといいます。どこで織られたかを確定するには、やはり糸そのものをもっと良く観察することで、答えをひも解くことができるかもしれません。

皇室の伝統の中で

本年秋には明治神宮鎮座一〇〇年祭記念の国際フォーラムが三日間に渡り開催されます。この昭憲皇太后大礼服の研究修復のセッションも十月二十四日に行われる予定で、国内外から染織修復や十九世紀欧米の宮廷服の専門家が集まります。この大礼服から見えてくるものをさらに解き明かしたいと思います。

修復事業は、修復に止まらず、その時代を語る大事な存在である文化財を守ることであり、その重要さが見えてきました。この度も、嬉しいことに多くの海外の専門家が協力してくれています。このような協力が得られるのも、この大礼服がスペシャルであることを自ら発信しているからだと感じます。

昭憲皇太后は激動の時代に日本赤十字の活動を推進され、ご下賜金により設立された昭憲皇太后基金は代々受け継がれ、今なお世界中の活動を支えています。（公財）文化財保護・芸術研究助成財団の活動は、まさしく文化財の赤十字です。昭憲皇太后が再興されたご養蚕は、赤十字と同じく、代々の皇后に受け継がれています。この伝統は、上皇后陛下美智子さまのご養蚕への思い、赤十字への思いへとつながり、そして、当プロジェクトへのご理解ご支援へとつないでいただきました。この脈々とつながってきた物語がこれからも続くよう、手遅れになる前に今の時代にできることを考えて、事業に取り組みたいと思います。これからも多くの文化財の声を聞き取り、その声を活かせるように数多の文化財が長く護られて行くことを願っています。

※ボティス：15世紀の西欧で登場した、体にぴったりとした腰の上までの長さの女性用の衣服。　※※トレイン：ドレスの後ろに長く引きずる裾の部分のこと。　※※※明治22年。

お囃子の世界から――小鼓の話

日本の古典芸能である歌舞伎においても能楽においても「場」を盛り上げる大きな役割りをになうのが囃子。広い裾野をもつ独特の世界を見る……。

東京藝術大学音楽学部
邦楽科准教授
盧 慶順（ろ・きょんすん）

邦楽囃子とは

わたしの専門にしているジャンルは「邦楽囃子」といいます。歌舞伎座で演奏されているお囃子、といえば緋毛氈に座り演奏している姿がイメージできますでしょうか？ お囃様の五人囃子を想像される方もいるかもしれません。

「邦楽囃子」は、四拍子と呼ばれる、笛（能管・竹笛）・太鼓・大鼓・小鼓を中心に、一〇〇近い蔭囃子の楽器が含まれています。例えば、お祭りで目にする大太鼓や当鉦、仏具の魚板や木魚やドラなどが代表的な楽器です。木製、金属製、竹製など様々な素材でできています。その起源も、能楽囃子や祭囃子、雅楽や地方の民俗芸能など、様々なジャンルに及んでいます。仏具や神具も楽器として用いられています。

元来、歌舞伎とともに発展しましたので、三味線音楽（長唄・清元・常磐津・義太夫など）と演奏することが多く、現在まで「歌舞伎囃子」や「長唄囃子」と呼ばれてきました。一九七〇年代になると、箏曲や尺八や洋楽器など様々なジャンルとの共演が増え、「邦楽囃子」という名称が、囃子方によって造語されました。現在では、奏者の間で一般に使用されています。東京藝術大学においても、二〇〇〇年に「長唄囃子」という専攻名から、「邦楽囃子」に改名されました。邦楽囃子の演奏の幅広さと、時代の変化を感じさせる名称です。

楽器のこと

邦楽囃子には多くの楽器がありますので、今回は小鼓のことを中心にご紹介したいと思います。

小鼓は砂時計型の胴（桜の木）に、馬の皮を麻の紐（調べ）で、表と裏にかけてあります。アフリカのトーキングドラムのように、緩く組んであり、左手で調べ（麻紐）を握ったり放したりして、音色を創り、右手で打ちます。客席からは、右手しか見えませんが、見えない左手は、大変な仕事をしています。胴や、皮の組み合わせ、奏者により、音色は千差万別です。

小鼓は、水に恵まれた日本の風土の中で生まれた楽器ですので、湿気を好みます。小鼓奏者が「はあ～」と皮に息をかけているのは、乾燥した皮を湿らせるためです。また、調子紙と呼ばれる、和紙を裏皮に貼り、表と裏の皮の重さのバランスをとり、湿り気を与えて音をチューニングしています。非常に繊細な楽器で、瞬間ごとに、音色が変化します。舞台上でも奏者は常に楽器のコンディションに集中しています。その日の天候や、舞台の湿度にもとても敏感です。

胴には漆が塗られてあり、花や草木などの美しい蒔絵が施されています。演奏家は鎌倉時代から江戸時代までの古胴を使用しています。漆が塗られているため、胴は何百年もの間、人々の手を渡り、現代の奏者に受け継がれています。それ故に、自身が使用する楽器には深い縁を感じます。

小鼓の音楽的特徴

小鼓は基本的に、高音（タ）と低音（ポン）を組み合わせて、リズムがつくられています。手組み（リズム）は、大きく分けて二種類あります。能楽囃子を起源にするもの（能拍子・※トッタン拍子）と、歌舞伎独特のもの（歌舞伎拍子・チリカラ拍子）です。能拍子は八拍を基本としています。チリカラ拍子は三味線音楽独特のもので、大鼓と小鼓の両者で、リズミカルな手組みが構成されています。

「ヨ」「ホ」「イヤー」などのかけ声が入るところも、囃子の大きな特徴です。かけ声をしながら打ち囃し、登場人物の位取りであったり、曲の雰囲気を表現します。

また、邦楽囃子の手組み（リズム）の多くは意味を持っています。物語の場面や、情景、登場人物の心情等が、囃子の手組みに含まれています。

小鼓・大鼓の唱歌と附け（譜面）

邦楽囃子のリズムは、全て唱歌で唄うことができます。三味線や長唄と合奏する場合、リズムを刻むという感覚ではなく、囃子は囃子の唱歌を歌いながら演奏しています。

例えば、古謡『さくら』（チリカラ拍子）を例にあげると、

「さくら　さくら　やよいの　そらは」
「チョチョタタ　チョチョトントン　スットンスタスタスットン」大小鼓の唱歌
（チョとスが大鼓、それ以外は小鼓の唱歌）

このように、唱歌をメロディにのせて唄いながら演奏しています。

また、邦楽囃子には独特の「間」というものがあります。これは、拍子や拍数では表現できないものです。音の無い静けさや、かけ声の中などに、譜面には書きあらわせない「間」を感じて頂くことができると思います。そこに、この音楽の面白さがあります。

譜面のことを「附け」と呼んでいます。基本的に口伝の世界です。販売されている譜面は数曲に止まり、殆ど使用されることはありません。お稽古で習得したものを、各自、手書きで附けにして使用しています。基本的に暗譜しますので、附けは不完全で、習わなければ読んでもわからないような面があります。五線譜よりもリズム表記も曖昧です。ただ、唱歌を読めるように記されていますので、そういった面では、邦楽囃子の音楽性をよく表現した、理にかなった方法だと思います。

おわりに

わたしは、小鼓の音色を目の前で聞いた時に、その音色の美しさに衝撃を受けて、邦楽囃子の演奏家を目指しました。今は、演奏家として活動するとともに、藝大をはじめ、多くの一般の方々にも教えさせて頂いています。性別や年齢や国、立場も異なる方たちです。その中で、多くの方に出会うことを喜びに感じてきましたし、邦楽囃子の楽器が人々に受け入れられ、生活になくてはならないものになっていく様を見てきました。邦楽はとかく敷居が高いように感じるかもしれませんが、何かのきっかけで足を踏み入れると、そこには、和の豊かな文化が広がり、人との繋がりが生まれ、人生を豊かに彩るのではないかと思います。ここに、ひとつの邦楽囃子の可能性があるように感じています。

また、音楽的なことをいえば、古典音楽の深さは底知れないものがありますが、加えて、新しい音楽的な可能性を見出していけるのではないかとも思っています。わたし自身の課題です。

音楽は当たり前のことですが、国籍や性別や言葉の壁を超えていくものだと思います。邦楽が広く世界に開かれ、若い才能が自由に伸ばされ、国際性豊かに発展していくように、わたし自身も微力ながらつとめていきたいと思います。

わたしの背中を押してくださる多くの方々に感謝をして、芸を磨き、邦楽囃子の楽器たちが見せてくれる世界を味わいながら、これからも歩んでいきたいと思います。

2019年3月　「モンテネグロ大学・レクチャーコンサート」

2018年4月　「日本橋くらま会」楽屋にて。前列右から4番目、筆者

2017年10月　「第３回歳松会コンサート～心に響く鼓の世界～」『海と風と』後列右筆者

2017年10月　「第３回歳松会コンサート～心に響く鼓の世界～」義太夫『猩々』前列左筆者

2018年9月　「東京藝術大学 和楽の美 信長・秀吉英雄譚」『醍醐の花見』奏楽堂にて。後列左から3番目、筆者

長唄・邦楽囃子のスコア譜：『五郎時致』『越後獅子』『鶴亀』

筆者略歴

山口県生まれ。芸名：望月彦慶。
東京藝術大学音楽研究科後期博士課程修了。
幼少よりピアノを学び、その後、邦楽囃子、長唄三味線、長唄、江戸里神楽、能楽囃子等を学ぶ。邦楽囃子演奏家として、古典から現代まで幅広く演奏活動し、邦楽囃子音楽の可能性を追求している。『海と風と』『田楽風囃子組曲』『三番叟組曲』『鼓曲～祈りの調べ』などの作編曲、作調も多数ある。長唄・邦楽囃子のスコア譜：『五郎時致』『越後獅子』『鶴亀』の作成に従事し、歳松会から出版。「鼓の会」「銀座小鼓教室」を主催し、一般に広く小鼓の普及につとめる。ロシア・モンゴル・中国・台湾・韓国・シンガポール・マレーシア・デンマーク・モンテネグロ等での海外公演やワークショップも多数ある。
東京藝術大学准教授。昭和音楽大学講師。邦楽囃子研究所歳松会理事。日本音楽集団団員。

※能楽囃子では、８拍を、「ツハッハイヤアンツホッホトッタン」と数えるために、トッタン拍子と呼ばれる。

災害と文化遺産

地球温暖化の証（あか）し、ともいわれる大型台風の発生。災害列島日本を襲う台風や地震から貴重な文化財を守るために私たちが求められているものとは……。

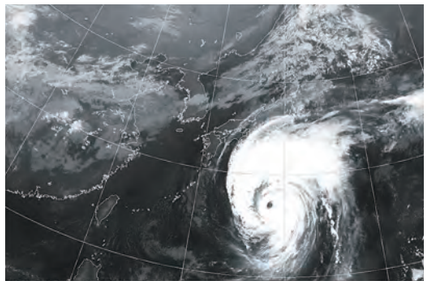
東京国立博物館名誉館員
保存科学者
神庭 信幸（かんば・のぶゆき）

はじめに

二〇一九年は大型台風の接近上陸によって大規模な自然災害が頻発し、多数の文化遺産の被災が相次いだ年である。さらに、沖縄の首里城正殿が十月三十一日に火災で焼失、またパリのノートルダム大聖堂が四月十五日から十六日にかけて同じく火災によって壊滅的な被害を受けている。リオデジャネイロのブラジル国立博物館が二〇一八年九月二日夜、火災により二千万点といわれる文化的遺産を失ったことも記憶に新しい。自然災害と人間による過失などが原因して、文化遺産はかつてない大きなリスクに直面している。

自然災害による文化財の被害

二〇一九年十月十二日から十三日にかけて東日本に記録的な大雨をもたらした台風十九号によって、阿武隈川や千曲川など七十一の河川が決壊し、死者九十三人、行方不明三人、住宅被害八万棟余の大被害をもたらした。十三都県で国や都県が指定・登録する文化財二百件以上が被害を受け、そのうち百七十九件は国の文化財という。被災文化財の多くは屋外で保存される史跡や建造物である。千葉県内では二〇一九年九月九日の台風十五号、十月十二日の十九号、十月二十五日の二十一号の影響による大雨で、国登録・指定文化財九十四件、県指定七十八件が被害を受けた。例を挙げると、千葉市にある国特別史跡の加曽利（かそり）貝塚、君津市にある重要文化財の神野寺表門、国天然記念物の笠森寺自然林など。被害総額は約八億円で、二〇一一年の東日本大震災の被害総額十億円超に次ぐ規模という。



2019年10月11日、台風19号気象衛星赤外線画像

二〇一六年四月十四日の前震、四月十六日の本震ともに震度七を記録し、熊本県地方に大きな被害を与えた熊本地震では、国指定の重要文化財や登録有形文化財等の被害件数は百五十件（二〇一六年五月三十日現在）である。このうち被災した建造物が九十六件で、全体の約三分の二を占め、史跡や名勝の被害を加えると全体の九割を超える。この中で、熊本城の復旧には数百億円要するといわれ、その他は合わせて百億円程度の規模である。二〇一一年三月十一日に発生した東日本大震災について各県別のまとめでは、岩手県は国指定・登録件及び県市町村指定件の合計百六十一件、宮城県は国指定・登録九十一件及び県市町村指定二百五十九件の合計三百五十件、福島県は国指定・登録八十二件及び県市町村指定二百十三件の合計二百九十五件、茨城県は国指定・登録百八十二件及び県市町村指定二百八十三件の合計四百六十五件である。指定以外の文化財では、岩手県下において約五十万点が回収され、その内四十六万点が陸前高田市内の博物館等施設からと報告されている。

2019年9月9日の台風15号によって倒壊した君津市にある国指定重要文化財神野寺「表門」（千葉県教育委員会提供）

2011年4月26日、陸前高田市立博物館の文化財レスキューを支援した自衛隊の活動

気候変動枠組み条約と文化遺産

国連気候変動枠組条約とは、一九九二年に採択され、一九九四年に発効した気候変動問題の解決にむけた世界で初めての多国間条約である。海面上昇や自然災害の大型化や多発化を招く気候変動の原因は、人間の生産活動によって大気中に放出された温暖化ガスの蓄積であり、その中心は二酸化炭素であると考えられている。一九九七年に京都で開催された第三回締約国会議（ＣＯＰ３）では二〇二〇年までの削減目標（京都議定書）が採択された。二〇一五年にフランス・パリで開催されたＣＯＰ21において採択されたパリ協定では、先進国・開発途上国の区別なく気候変動対策の行動をとることを義務づけた協定となった。しかしながら、二〇一九年十一月米国が不公平な経済的負担を理由にパリ協定からの離脱を国連に通告し、世界中で唯一協定に参加しない国となっている。

持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）

二〇一五年九月に国連で開かれたサミットの中で世界のリーダーによって決められた、国際社会共通の目標を「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」といい、ＳＤＧｓは略称である。二〇一五年から二〇三〇年までの長期的な開発の指針として、十七の国際目標（その下に、百六十九のターゲット、二百三十二の指標が決められている）が設定されている。ＳＤＧｓの主要課題のなかでもわが国は防災及び気候変動に関して、

SDGｓには17の国際目標が決められている

備災、減災への努力

防災や減災の努力は必要であるが、被災を前提にした備災について触れておきたい。国、県、市町村指定の文化財については、行政によって迅速かつ正確な報告が存在する一方、未指定の文化財については実態が把握されていない点が問題である。文化財分野全般における正確な被災総額を算出し、復旧・復興予算要求をすることはわが国の文化遺産を災害から守るためには喫緊の課題である。災害後の支援において緊急人道支援から復興支援への切れ目のない移行を行うために、災害後ニーズ評価（ＰＤＮＡ：Post Disaster Needs Assessment）と呼ばれるプログラム策定が重要視されているが、それには被災件数の把握が優先的課題である。そのためには、地域に所在する歴史遺産の把握を具体的に行う必要がある。

2018年11月30日、東京国立博物館で開催された第2回世界津波博物館会議。後列左から２人目筆者。
https://www.preventionweb.net/news/view/62734より

自然災害発生後、被災した文化財が実際にレスキューされるまでに一ヵ月程度の空白の時間がある。「仙台防災枠組二〇一五―二〇三〇」の実施を主導し、防災の主流化や「世界津波の日」の普及・啓発を推進、日本の技術・経験で世界の脱炭素化を牽引などに対しリーダーシップをとると表明している。国立文化財機構を中心とした文化財防災ネットワークの構築により、地域及び広域連携が一層進みつつあるとはいえ、迅速な対応には専門家による実働部隊の存在が不可欠で、そのためにはブルーシールド国際委員会（International Committee of the Blue Shield：ＩＣＢＳ）は文化財保護に関する五つの非政府組織（国際図書館連盟（ＩＦＬＡ）、国際文書館評議会（ＩＣＡ）、国際博物館会議（ＩＣＯＭ）、国際記念物遺跡会議（ＩＣＯＭＯＳ）、視聴覚アーカイヴ組織調整協議会（ＣＣＡＡＡ）で構成され、災害から文化遺産を保護するために設立された機関で、自衛隊などの専門機関との連携を構築するために必要となる。

ブルーシールド国際委員会は自然災害から文化遺産を保護するために設立された非政府組織

最後に、気候変動を抑制するために、低炭素社会さらには脱炭素社会を実現して二酸化炭素排出量の削減を進める必要がある。当然、文化遺産を保護する活動もその枠組みに含まれる。博物館の展示収蔵環境条件の見直し、博物館施設等の維持に必要なエネルギーの低減など、私たちにも具体的な取り組みが求められることを忘れてはならない。

筆者略歴

一九五四年島根県生まれ。一九七七年、東京都立大学理学部物理学科卒。同七九年、東京藝術大学美術研究科大学院修士課程保存科学専攻修了。国立歴史民俗博物館助教授、東京国立博物館保存修復課長等を経て、現在、国際博物館会議（ＩＣＯＭ）委員、（一社）世界紙文化遺産支援財団紙守執行理事等の職にある。『博物館資料の臨床保存学（武蔵野美術大学出版局）』ほか著作物多数。博士（美術）。

第15回 日中韓 文化交流フォーラム報告

文化・芸術の力によって東アジアの平和と繁栄に貢献する。この理念のもと、第15回目を迎えたフォーラム。今回のテーマは「音楽」。三ヵ国が奏でた楽の音は……。

財団専務理事 **小宮 浩**（こみや・ひろし）

◈ 令和の年に

第15回日中韓文化交流フォーラムは、昨年十一月十三日から十六日までの日程で東京で開かれました。

今回のテーマは音楽。もう少し具体的に記しますと、「音楽――アジアをつなぐ弦の響き」ということで、対象としたのは弦楽器です。

弦楽器といっても多種多様なわけですが、日本は「箏」を、中国は「古琴」を、韓国は「伽耶琴」を取り上げることになりました。

フォーラムの会場は東京ドームホテル。中国代表団の到着が遅れたため、開会式を予定通り進めることが出来るか、一時は危ぶまれましたが、関係者の努力でなんとかクリアしました。

澤和樹学長の指揮で「わたしは未来」の合唱

3ヵ国代表団勢ぞろい

十一月十三日午後六時より開会式。出席者は三ヵ国の代表団や来賓を含め五〇名。冒頭、まず「会歌」として位置付けられた「わたしは未来」が、澤和樹東京藝術大学学長の指揮で披露されました。今回、歌ってくださったのは、中国、韓国から東京藝術大学に留学されている研究生と音楽学部の声楽科に所属する学生の皆さん。その美声は改めて「わたしは未来」の魅力を浮きぼりにした観がしました。

式に出席してくださったこの曲の作詞者である作家の夢枕獏さんは、大変喜んでおられましたが、作曲者の松下功先生が一昨年、逝去されたことはかえすがえすも残念なことでした。

開会式には、中国大使館から郭燕首席公使が、また韓国大使館からは南官杓大使が来賓として出席してくださり、御祝辞をいただけたことは光栄なことでした。

祝辞を述べる 中国・郭燕首席公使

祝辞を述べる 韓国・南官杓大使

鄭求宗委員長（韓国）

李小林委員長（中国）

挨拶に立つ宮廻正明委員長（日本）

そして、宮田亮平文化庁長官の乾杯の発声をもって、歓迎宴へと進んでいった次第です。

◈ フォーラムの模様

十一月十四日午前九時よりフォーラム開始。中国代表団は、中国人民対外友好協会の李小林会長を委員長とする八名。韓国は、韓日文化交流会議の鄭求宗委員を委員長とする八名。そして、日本代表団は、当財団の宮廻正明理事長を委員長に、副理事長の青柳正規氏、東京藝術大学学長の澤和樹氏、元ユネスコ大使・カナダ大使の門司健次郎氏、東京藝術大学音楽学部教授の塚原康子氏、同・萩岡松韻氏、加えて筆者と、七名の布陣でした。

なお、会議には、中国大使館から参事官の聶佳氏と書記官の付博氏が、国際交流基金から日本研究・知的交流部の河野明子氏と藤原花氏が、そして当財団理事の野口昇氏が陪席人ということで傍聴されました。

会議は、各国の委員長の挨拶からスタート。三人の委員長の論調は、時の政治状勢に翻弄されることなく、このフォーラムが続いたことへの評価、未来志向のもと、継続する努力の大切さ、重要性で一致していました。

専門家の先生方の講演は萩岡松韻先生から。演題は「シルクロードがもたらした響き」。

先生は「箏」と「琴」のちがい、箏曲の歴史、日本における二大流派である山田流と生田流のちがい、御自身が所属する山田流の創始者である山田検校（一七五七～一八一七）の業績など多岐にわたって語られました。

そして、今、私たちが耳にする箏の音も源流をたどればシルクロードにたどり着くと、結論づけられました。

古琴演奏家で中国琴会副会長の楊青氏は、「東アジア文化に対する孔子古琴楽教の影響」という演題で講演。

古琴の歴史や、その構造などの話の中で、あの孔子も音楽には理解が深かったこと、一九七七年にアメリカが打ち上げた宇宙探査機ボイジャー1号、2号と古琴との関わりなどを話されました。

ボイジャーには、はるか未来、宇宙の知的生命体との遭遇を想定して地球の様々な情報を収録したゴールデンレコードが搭載されています。その中に、当日、東京藝術大学で演奏された「流水」も納められています。また、古琴の演奏技は二〇〇九年にユネスコの無形文化遺産に登録されています。

楊先生の話は正倉院の御物の中に唐の時代に作られた金銀平文琴とよばれる古琴があることにふれるなど、興味深いものでした。

韓国芸術総合学校教授の閔義植氏は、「伽耶琴の歴史と変遷」と題して講演されました。

伽耶琴の歴史、楽器としての特徴、伽耶琴の種類などを紹介。この琴には太陽、宇宙を表わす壮大な音が秘められているなど、話は大きくなりました。

伽耶琴は、日本には奈良時代に新羅から伝えられたので新羅琴とよばれていましたが、新羅琴　金薄輪草型鳳形とよばれる琴が正倉院に納められています。

恒例の記念品の交換を終えて

「わたしは未来」の作詞者・作家の夢枕獏さん

乾杯の発声は宮田亮平文化庁長官

フォーラムの本会議の模様

休憩時間は㈱伊藤園の御好意によるお茶の会

閔先生は伽耶琴の演奏法の解説の後で、現在は電子伽耶琴の開発も研究されているなどその一端を披露されました。

会議はここで休憩となり、㈱伊藤園の御好意により参加者は抹茶の御手前をいただきました。

会議の後半は自由討議となりましたが、音楽がテーマだけに激しい論調の意見はありませんでした。

ただ、伝統文化・芸術としての「琴」の後継者に関する質疑応答がなかったのは意外でした。

宮廻委員長から「音楽」を取り上げたのは、今回が初めてである。音楽は山高く裾野の広い対象なので、今回は特に結論は出さず、このテーマは今後、機会をみて様々な角度から取り上げてみようではありませんか、との提案もあり、会議は収束方向へ。最後に李小林委員長から、互いに学びあい、協力しあうことで、このフォーラムのさらなる発展に期待を寄せる旨の発言がありました。

◈ 東京藝術大学にて

この日、午後、舞台は東京藝術大学へ。Arts & Science LAB.の「COIホール」で「琴」の演奏の競演となりました。

日本は、萩岡教授の唄、上條妙子准教授の箏、青木鈴慕講師の尺八で奈良の古刹の四季のたたずまいをうたった「秋篠寺」を演奏。

中国は楊青先生の古琴演奏と夫人で琴歌唱頌者の梁雅さんの唄で「流水～酒狂～蒹葭」が紹介されました。

韓国は閔義植先生の伽耶琴と閔栄治氏のチャングによる伴奏で、仏教音楽の梵唄の音階を基に東洋と西洋の共同的な原始情緒を表現した作品といわれる「沈香舞」が演奏されました。

最後に澤学長の肝煎で大学院の学生の皆さんがヴァイオリン、ビオラ、チェロ、コントラバスを担当。学長はソロ・ヴァイオリン。そしてチェンバロの伴奏に代わり上條先生の箏が加わって、ヴィヴァルディの「四季」の中の「秋」が演奏されました。

日頃なかなか聞くことの出来ないプログラムだけに三ヵ国委員の先生方をはじめ、観客の皆様は大変満足された様子でした。

演奏会のあと代表団は東京藝術大学の視察となりました。

宮廻委員長が取り組んでいる「クローン文化財」の研究・開発現場を見学したあと奏楽堂へ。ここでは藝大オケのゲネプロの最中で、わずか十五分ほどでしたが、藝大サウンドによるマーラーの交響曲第五番を鑑賞しました。その後、能ホールを見学したあと、一行は美術学部へ。

「沈香舞」を演奏する閔義植先生。右は伴奏（チャング）の閔栄治氏

「秋篠寺」を演奏する萩岡松韻、上條妙子、青木鈴慕の各先生（左より）

ヴィヴァルディの「四季・秋」はAIを用いたアニメをバックに……

古琴を演奏する楊青先生。右は夫人の梁雅さん

美術学部では石膏室を見学したあと日本画研究室で、手塚雄二教授から日本画についての解説を受けました。その後、模写に取り組む学生の皆さんの話と模写の意義など熱心に聞き入っていました。

そして、文化財保存修復研究室（彫刻）では、中国からの留学生と籔内佐斗司教授の案内で現場の雰囲気にひたった次第です。

東京藝術大学の視察は、中国、韓国の代表団の先生には極めて満足のいくものだったように思えました。

宮廻委員長の解説による「クローン文化財」とは……

日本画研究室で模写の意義を解説する手塚教授

文化財保存修復（彫刻）の解説は籔内教授（中央後方）

◈ 紅葉の日光で

十一月十五日。恒例の視察の旅は「日光」としました。フォーラムの期間中、天候は良好で、この日も快晴。紅葉も真っ盛りでした。

スケジュールの都合で、訪ずれたのは、ユネスコ世界遺産の東照宮と輪王寺。

東照宮では大嘗祭をうけて、御祭神である徳川家康公への御報告の儀が行われておりました。神職の方の案内で参拝と見学。平成の修理を終えた陽明門の彫刻の中に中国の故事にちなんだものが数多くあることや、朝鮮通信使がもたらした記念の品などを目のあたりにして全員、日中韓の関係の深さを再認識しました。

東照宮の特別のお計らいで参拝、見学の後、社務所で直会の杯をいただき、輪王寺へ移動。

輪王寺のこれも特別のお計らいで、昼食は大正天皇ゆかりのお部屋を使わせていただき取ることになりました。

昼食後、江戸幕府第三代将軍徳川家光公の廟である大猷院へ。

大猷院の建築にも中国の影響を受けたものが多く、やはり中国、韓国、日本の絆は深く強いものだとの感じがいたしました。大猷院のあと、三仏堂を拝観し、帰途につきました。

十一月十六日は、中国と韓国の代表団は予定通り帰国の途につかれました。

最後になりましたが、このたびのフォーラムに際しまして、多大なる御協力を賜りました東京藝術大学、東照宮、輪王寺に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

また、物心両面で多大なる御支援を賜りました個人、法人の各位に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

東照宮の松田智哉主典の陽明門の説明に聞き入る

輪王寺の紅葉を背に（後方は大護摩堂）

写真：仙波志郎

事務局報告

令和元年度助成事業の採択状況について

令和元年度助成事業の申請、採択状況について次のとおり報告します。

■文化財保存修復助成事業

二十六都府県の教育委員会等から推薦があり、審査の上、次のとおり助成を決定しました。

	申請数	採択数	決定金額
美術工芸	十五	七	二百十万円
建造物	二十七	十七	七百万円
有形民俗	二	一	三十万円
その他	二	一	三十万円
在外研修員	一	一	三十万円
計	四十七	二十七	一千万円

修復された「賀茂神社本殿」（宮城県仙台市）

修復された「日野曳山祭／金英町曳山」（滋賀県蒲生郡）

■芸術研究等助成事業

研究者からの申請に基づき、審査の上、次のとおり助成を決定しました。

申請数	採択数	決定金額
二十三	十一	四百万円

東京藝術大学 味見純「和楽の美」公演

■国際協力助成事業

研究者からの申請に基づき、審査の上、次のとおり助成を決定しました。

申請数	採択数	決定金額
五	四	三百三十万円

■重点助成事業

(1)熊本地震被災文化財救援・復旧支援事業

教育委員会から推薦があり、審査の上、次のとおり助成を決定しました。

	申請数	採択数	決定金額
美術工芸	三	三	二百七十一万円
建造物	二	二	三百二十九万円
計	五	五	六百万円

(2)その他（東日本大震災被災文化財復旧・支援事業　前年度保留分）

教育委員会から推薦があり、審査の上、次のとおり助成を決定しました。

	採択数	決定金額
建造物	二	三千二百五十万円

賛助会員ご入会とご寄付を頂きました皆様

◎令和元年9月26日から12月15日まで　敬称略　順不同

☆賛助会員

○個人（正）会員　（氏名）

☆寄付金

○文化財保存修復・芸術研究等助成事業に対する寄付

ヤフーネット募金（132名様）
野村ホールディングス㈱
㈱ティアンドケイ・ミュージック
㈱ミロク情報サービス
（公財）日本交通文化協会
（一社）日本建設業連合会 社会貢献活動協議会

○熊本地震被災文化財救援・修復支援事業に対する寄付

○松尾大社本殿等修復支援事業に対する寄付

平成の御遷宮奉賛会（個人14名）

○サールナート（インド）野生司香雪の仏伝壁画保全支援事業に対する寄付

大とみ行政書士法人
明順寺
大川長俊税理士事務所
（宗）善光寺大勧進
一心寺
（社福）高照福祉会 はなぞの保育園
（宗）大本山善光寺大本願
大円寺
圓福寺
願成寺

○昭憲皇太后大礼服研究修復復元支援事業に対する寄付

㈱トプコン
中外製薬㈱

○東日本大震災被災文化財救援・復旧支援事業に対する寄付

○熊本地震被災文化財救援・修復支援事業に対する寄付

お願い

◎熊本地震被災文化財の救援と復旧のための募金のお願い

平成二十八年四月に熊本県を中心に発生した熊本地震により被災した文化財の保全に向けて、募金活動を行っております。

いただきました浄財は、熊本地震被災文化財レスキュー事業等、被災地域の文化財等の救援のために活用（平成二十八年度助成実施）させていただくとともに、文化庁・熊本県と協議の上、被災文化財の修復・保存のために活用させていただいております。

しかしながら修復・保存する物件も多く、まだまだ財源が不足しています。引き続き皆様の温かいご支援、ご協力をお願い申し上げます。

募金のお振込み手続きは左記の銀行振込又は郵便振替によりお願い申し上げます。

＊

銀行振込（①銀行名②口座番号③名義）
①三井住友銀行　上野支店
②普通　8399622
③（公財）文化財保護・芸術研究助成財団

※銀行振込の場合、振込者の確認が難しいため、領収書、お礼状の発行等の必要上、財団事務局に事前にご連絡をいただけると幸いです。

（電話：〇三・五六八五・二三一一）

郵便振替（①振替番号②加入者名）
①00160・5・12319
②（公財）文化財保護・芸術研究助成財団

※通信欄に「熊本地震」とお書きください。

◎賛助会員ご入会並びにご寄付（前記のご寄付を除く）のお願い

《賛助会員》

当財団では、財団の活動趣旨にご理解、ご賛同いただき、恒常的にご支援いただける法人、個人の賛助会員を募集しています。

法人正会員　年額（1口）　50万円
個人正会員　年額（1口）　1万円
維持会員　年額（1口）　10万円

《ご寄付》

賛助会員の他に、ご寄付も随時受け付けております。ご寄付の方法は様々な方法がありますので、左記のとおりご紹介します。詳細は当財団事務局までお問い合わせ下さい。

（電話：〇三・五六八五・二三一一）

(1)銀行振込又は郵便振替

銀行振込や郵便振替でもご寄付を受け付けております。

（銀行振込）
○三井住友銀行　上野支店
普通　6615500
○みずほ銀行　上野支店
普通　4478576
○三菱UFJ銀行　上野中央支店
普通　0796384

（郵便振替）
00160・5・12319

※口座名義は、銀行、郵便局、いずれも（公財）文化財保護・芸術研究助成財団

※銀行振込の場合、振込者の確認が難しいため、財団事務局に事前にご連絡をいただけると幸いです。

(2)インターネットによるご寄付

次の手順によりインターネットから、クレジットカード又はTポイントによるご寄付（募金）を受け付けています。

←○「YAHOO！JAPANネット募金」
←○「文化・スポーツ」
←○「クレジットカード」又は「Tポイント」を選択
←○募　金

(3)特定寄付信託

信託した金銭を運用収益とともに寄付するものです。当財団は、みずほ信託銀行と特定寄付信託に関して契約しています。詳細は左記にお問い合わせ下さい。

みずほ信託銀行
（電話：〇三・三二七四・九二〇三）

(4)遺贈

「遺贈」によるご寄付・相続財産のご寄付を承っております。

「遺贈」とは、遺言により、ご自分の財産を特定の人や団体に分け与えることをいいます。受取人として、法定相続ではなく遺言書により、一部又はすべての財産の受取人として、公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団をご指定いただくことができます。

財団に寄付をされた場合、相続税の控除を受けることができます。

遺贈をご検討いただく際は、お電話かメールにて当財団までご相談下さい。

(5)商品券・図書券等による寄付

ご家庭のタンスや事務室の机の中等で眠っている、未使用の商品券、図書券、切手、収入印紙、ビール券、お米券、旅行券、QUOカード、テレホンカード、書き損じ葉書等もご寄付として受け入れております。

お送りいただく場合は、当財団事務局宛てに封書にてご郵送下さい。

＊　＊　＊　＊　＊

●税法上の優遇措置

当財団は、「公益財団法人」としての認定を受けておりますので、賛助会費・寄付金（募金）には税法上の優遇措置が適用され、所得税、法人税等の控除が受けられます。詳しくは当財団ホームページでご確認いただくか事務局までお問い合わせください。

＊　＊　＊　＊　＊

☆財団案内及び賛助会員入会申込書のご請求、その他ご質問等お問い合わせは財団事務局までご連絡をお願いいたします。

令和二年度助成金の申請に関するお知らせ

令和二年度助成事業にかかる助成金申請について、左記のとおり受け付けを行っています。詳細は、当財団ホームページ（助成金のご案内欄）でご確認ください。

①例年実施の文化財保護、芸術研究に係る助成事業

②熊本地震被災文化財救援・復旧支援事業

（申請期間）
令和二年一月十日～二月末日（必着）

今号の表紙　平山郁夫　法隆寺

焼損した法隆寺の壁画の源流を中国の敦煌の遺跡に求めていた平山郁夫画伯が、念願が叶って初めて敦煌莫高窟を訪れたのが、この作品が描かれた一九七九年だった。

法隆寺に残る仏教美術には、シルクロードを通ってもたらされたものが多い。日本の国宝にしてユネスコ世界遺産でもある法隆寺には歴史的にまだ解明されていない謎が多く秘められている。

平山画伯は法隆寺に画題を求めた作品を数多く残している。また、焼損した3号壁画（観音菩薩像）の再現模写も担当されていた。そうした経緯もあって法隆寺には格別の想いを寄せていたことは事実であろう。

法隆寺　1979年

編集後記

令和の御代の本格的始動です。この時代が平和で豊かであれ、と誰もが願っていることと思います。しかし、地球上で戦火の止んだ日はありません。自然災害はともあれ、人と人との争いである戦争は人類の叡智をもって終止符を打ちたいものです。

人の荒んだ心を救うものは、文化・芸術の力です。その文化・芸術を守り、発展させるためにも、微力ではありますが、スタッフ一同、本年も真摯に取り組んでまいります。よろしくお願い申し上げます。

広報誌「絲綢之路（しちゅうのみち）」（シルクロード）
二〇二〇年　新春号　通巻第九十二号

●

★令和二年一月二十四日発行
★編集発行／公益財団法人 文化財保護・芸術研究助成財団　事務局©
〒110-0007 東京都台東区上野公園十二－五十
電　話（〇三）五六八五－二三一一
ＦＡＸ（〇三）五六八五－五二二五
URL:http://www.bunkazai.or.jp/
E-mail:jimukyoku@bunkazai.or.jp
★印刷　篠田印刷株式会社